

大成建設、日揮が入札参加へ＝ミャンマー新国際空港建設

民主化と経済改革が進むミャンマーで、新たな国際空港の建設プロジェクトの入札に、大手ゼネコンの大成建設やエンジニアリング大手の日揮が参加の意向を表明していることが27日、明らかになった。インフラ需要の拡大が予想されるミャンマーには各国企業が注目しており、入札にはフランスなど欧州勢や韓国などアジア勢も参加する方針を示している。

新空港は「ハントワディ国際空港」。ビジネス客、観光客の増加で手狭となった「ヤンゴン国際空港」を補完する第2国際空港の位置付けで、ヤンゴンから約70キロ離れた都市バゴーに建設される。

ハントワディ国際空港の建設・運営事業の入札には、大成建設や日揮、シンガポール企業でつくるグループなどが参加の意向を示している。日本勢のほかフランス、ドイツ、韓国、中国の企業などが入札の事前資格審査を通過した。2013年に入札を実施、17年ごろに開港する予定だ。

また、手狭となったヤンゴン国際空港についても5年後をめどに旅客処理能力を現在の年間270万人から2倍の550万人に増強する拡張計画が進んでいる。同空港の拡張・運営事業の入札にも複数の日本企業が参加の意欲を表明しているもようで、年明けにも事前資格審査の結果が出る見通し。

二つの空港プロジェクトはいずれも民間資金を活用した官民連携方式で進められており、入札に参加する場合、資金調達が大きな課題となる。



SINGAPORE NOW!

〔進出〕

クロックオン、無料ノートをアジアの子供に

2008年に日本で広告入りの無料ノート事業を始めたクロックオンは、12年4月にアジア圏の拠点となるシンガポール現地法人を設立、事業を開始した。シンガポールを拠点に東南アジアでも子供向けに無料ノート事業を開始する計画。同社の創設者の一人で、シンガポール法人社長の前田頌太氏にビジネス展開の見通しを聞いた。

- 無料ノート「タダノート」サービスとはどういう事業か。

広告が入っているノートを無料で提供するサービス。広告費が売り上げになる。日本では約5年前に大学生向けに始め、今では幼稚園・保育園から小中高校に拡大している。

- シンガポールに進出した理由は。

グローバル企業が拠点を置いており、広告営業がしやすい。ビジネスモデルが分かりやすく、広告主にもうまく理解してもらえている。無料ノートを配布する国はシンガポールの周りの国を考えている。インドネシアとベトナムに早急に拠点を立ち上げその後マレーシアタイフィリピンでも無料ノート事業を開始したい。

- 無料ノート事業で利益は出るのか。

日本では利益が出ている。しかし、海外では難しいと思っている。ビジネスモデルを真似される恐れもある。ノートの配布で会員を集め、会員向けのインターネットサービスの提供で利益を得る方法を考えている。

- 具体的なネットサービス内容は。

無料サービスと有料サービスを検討している。学校へ行けない子供向けに無料で授業や教育のコンテンツを提供していきたい。一方で富裕層の家庭向けには文書のデータ化サービスや有料の塾サービスなどを考えている。日本ではやっていないことなので、まだ構想段階だ。アジアでビジネスモデルを作り将来的には教育サービスが必要とされているアフリカや南米にも広げていきたい。(シンガポール時事)



クロックオン・シンガポール法人の前田頌太社長